

# デジタル化した古籍校勘版本の処理技術

## — CBETA 大正藏電子佛典を例として

釋惠敏

(國立台北藝術大學、台灣)

我國の漢譯佛典は、後漢に始まり元代に至る。前秦の道安から隋唐時代に至るまで、佛典を蒐集・分類して目録を編纂し、それらを「一切衆藏經典」「一切經藏」「大藏經」と總稱したが、流通はすべて書寫に依存した。宋の開寶四年(971)にいたり「開寶藏」と呼ばれる刻印(木版印刷)版本が始まり、日本・契丹・西夏・高麗の諸國や國內各地に頒布した。この後、契丹藏(丹本)・金藏(趙城本)・萬壽藏・毘盧藏・圓覺藏・資福藏・磧砂藏等の宋朝版本および韓國の高麗藏がつくられた。元代には普寧藏・弘法藏等が、明代には南藏・北藏等が、清代には龍藏が刊行された。

中華電子佛典協會(CBETA)は、現在ひろく學界で使用されているところの、日本の大正時代(1924~1934)に編輯・出版が始まった藏經(略稱『大正藏』)を底本とし、デジタル化の作業を進めている。『大正藏』は高麗本を底本とし、宋・元・明の三本を對校し、別に正倉院藏經、敦煌古本およびパーリ語・サンスクリット語經典を参照し、あわせて校勘欄の中で各版本の用字の異同等の情報を記録している。CBETAは電子佛典を製作する過程でこの校勘情報をXMLで記録し、あわせてHTML方式で表示し、校勘情報から部分的に版本を復元し、利用者が、異なる版本を選択して拾い読みできるようにした。この作業の過程とその表示方法は、あるいはデジタル化した古籍校勘版本の處理技術の參考となるかもしれない。

釋惠敏 SHI Huimin しゃく・えびん

1954年生

國立臺北藝術大學教授 法鼓山中華佛學研究所副所長  
中華電子佛典協會主任委員 文學博士(東京大學)

主要著作 《中觀與瑜伽》 『「聲聞地」における所縁の研究』 “A Study on Creation and Application of Electronic Chinese Buddhist Texts: With the Version Comparison and the Commentaries of Yogacarabhumi as a Case Study” (虛雲和尚長時住定經驗之探索)

ほか多数